

Margazhi Japan 2026

南インドの聖なる歌声

～カルナータカ音楽の世界～



極上の旋律とリズム
現代に歌い継がれる
南インド古典音楽

ムリダンガム

カンジーラ

《出演》

ヴォーカル / トリシュール・ブラザーズ
 ジュリクリシュナ&ラームクマール
ムリダンガム / アクシャイ・アーナンタバドマナーバン
カンジーラ / スニル・クマール

オープニングアクト: インド舞踊の会サランガイ

2026
11/8 SUN.

開場 14:00 開演 14:30

(静岡県富士市蓼原町1750番地)

富士市文化会館ロゼシアター 小ホール

入場料 [全席指定・税込] <一般>4,400円 <ペア券>8,000円

※未就学児入場不可



友達募集中/
LINE
公式アカウント

発売日 2026年8月9日(日)10:00～WEB ※窓口販売は8月10日(月)10:00～

チケット取扱い

- ・ロゼシアターホームページ(<https://rose-theatre.jp>)
- ・ローソンチケット(Lコード/43078)
<https://l-tike.com>
- ・ロゼシアター窓口(営業時間 9:00～20:00)

※ペア券はロゼシアターのみ取扱い

※ロゼシアターでチケットをお求めの際は「ロゼ・フレンドシップ」へのご登録が必要です。※車椅子席はロゼシアターへお問い合わせください。

主催:公益財団法人富士市文化振興財団

共催:まちかど倶楽部 特別協力:インド舞踊の会サランガイ

後援:富士市国際交流協会、富士宮市国際交流協会、公益財団法人静岡県国際交流協会

お問い合わせ:富士市文化会館 ロゼシアター TEL0545-60-2500



アクセス情報 /



🚗 周辺店舗への無断駐車はご遠慮ください。駐車場の詳細は会館ホームページをご確認ください。

カルナータカ音楽〈Carnatic Music〉とは？

富士市の皆さん、お待たせしました！インドから4人の凄腕ミュージシャンがロゼシアターにやってきます！南インドの古典音楽「カルナータカ音楽」の中心地チェンナイ(旧マドラス、タミル・ナドゥ州)で飛ぶ鳥を落とす勢いの兄弟ヴォーカルデュオ「トリシュール・ブラザーズ」がムリダングムとカンジエラという南インドの打楽器とのアンサンブルで熱く歌い上げます！このカルナータカ音楽は一言で言うならば「ヒンドゥー教の讃歌」。その根底にあるのは「祈り」で精神的源流はユネスコ世界無形文化遺産にも登録されている「ヴェーダ」の詠唱にあると言われています。神への献身や祈りを歌ったヒンドゥー教の讃歌が南インドならではの流儀で洗練され高度な音楽芸術として発展、遙か現代にいたるまで歌い継がれてきたのです。

クラシックと言えば、西洋の古典音楽だけを想像しがちですが、インドにも長い歴史に培われたインドのクラシックがあるのです。そこでは観客の楽しみ方もインド流。かきこまて聴くのではなく、ステージに全集中し素晴らしい演奏に対してはすぐさま感嘆や賞賛の声を上げ、曲のリズムサイクルに合わせて手を打ち打楽器奏者が生み出すリズムの妙を楽しんでいます。ただの「お客さん」ではなく、ミュージシャンとともに「音」と「空間」を共有し、「コンサート」という場を創り上げるのです。どうぞ皆さんも「インド流」で楽しんでいただければ嬉しいです！

日本でも大ヒットしたインド映画「RRR」をご存じの方も多いかと思います。実はこの映画の言語はテルグ語という南インドの言葉。カルナータカ音楽でもこのテルグ語の曲が一番多く作られていますので、このロゼシアターにもテルグ語の歌が響き渡るでしょう。この公演が皆さんにとって「RRR」に続く大ヒットとなりますように！（まちかど倶楽部 / マールガリ・ジャパン 井生明）

出演者プロフィール

トリシュール・ブラザーズ Trichur Brothers

兄シュリクリシュナと弟ラムクマールの実の兄弟によるヴォーカルデュオ。幼い頃からムリダングム奏者である父よりカルナータカ音楽の英才教育を受ける。信仰心と情感に溢れる熱い歌唱と、実の兄弟ならではの息のあったコンビネーションで魅せる。ユニゾンで歌う既存のヴォーカルデュオのスタイルをより発展させ、互いにフレーズのやり取りをしながら旋律を紡ぎ、インド古典音楽には本来無い「ハーモニー」を西洋音楽とは異なる味付けで取り入れる独自のスタイルを確立。二人の声が共鳴して響き合う瞬間には極上の音世界が現出する。

欧米や東南アジアなど海外公演歴も多数あり、アメリカのティヤール・ガラージャ・アーラダナー(クリーヴランド)やシドニー・ミュージック・フェスティバルなどの音楽祭にも出演。ケニア・ナイロビでも満員の観客を迎えられてのコンサートを行った。インドのナレンドラ・モディ首相が提唱したガンジス川を浄化する国家プロジェクト「ナマミ・ガンゲ」では、公式テーマソング「ナマミ・ガンゲ(Namami Gange)」を作曲。首相のドバイ訪問時に、5万人を超える聴衆を前にこの曲を披露した。



左)ラムクマール 右)シュリクリシュナ

アクシャイ・アーナンタパドマナーバン Akshay Anantapadmanabhan(ムリダングム)

5歳の時にムンバイでムリダングムを始める。9歳でアメリカに移住し、ガタム奏者で「コナッコルの魔術師」との異名をとるスバシュチャンドラン師に師事。大学卒業後はニューヨークのクーパー・ユニオンで工学修士号を取得するもムリダングムへの情熱は醒めず、2012年にインドのチェンナイに移住。カルナータカ音楽のプロのムリダングム奏者としての道を歩み始める。

シーンを代表する音楽家との共演だけでなく、古典音楽の枠を超えた「Carnatic 2.0 Reloaded」や「The Thayir Sadam Project」などのフュージョン・グループでも活動。2019年に公開された長編映画「His Father's Voice」では、「Weapons of Love」など複数の楽曲でムリダングムを演奏。2025年にはアメリカ・ネヴァダ州の砂漠にて開催の野外イベント「バーニングマン」にも出演し、世界で最も前衛的なステージにムリダングムを奏して南インドのリズムを響かせた。

自身の専門であるエンジニア的視点からムリダングムを改良したり、ムリダングム及び南インドのリズムの普及にも尽力するなど多方面に及ぶ興味とそれを支える音楽的才能を持つ新進気鋭の音楽家。



スニル・クマール Sunil Kumar (カンジエラ)

幼少の頃から、儀礼にて演奏されるタヴィルという太鼓の奏者である父シェーカルの指導の下、カルナータカ音楽のリズムの基礎とタヴィルの演奏方法を学び始める。その後、アルバム「This Moment」でグラミー賞を受賞した「Shakti」に参加のV.セルヴァガネーシュにカンジエラを学び、素焼きの壺太鼓ガタムの巨匠でグラミー賞受賞者のヴィック・ヴィナーヤクラムにコナッコルを学ぶ。タミル・ナドゥ州立音楽大学のソロ演奏コンクールで一位を受賞するなど頭角を現わし、オール・インド・ラジオのAグレード・アーティストにも認定される。

2011年、ムンバイで開催された伝説的タブラ奏者ザキール・フセイン主催の音楽祭に師セルヴァガネーシュと共に出演。2016年にはカルナータカ音楽の楽聖ティヤール・ガラージャの名を冠した音楽祭に出演、その演奏の様子がインド全土に放送される。現在でもカンジエラ、タヴィルなど複数のパーカッションを演奏しマルチな才能を発揮する若手の有望株。



インド舞踊の会 サランガイ

インド舞踊家平林千亜紀が2000年に設立。静岡県富士宮市を拠点に南インド古典舞踊バラタナティヤムの舞台活動を全国で展開。自スタジオでは舞踊教室のほか、インド文化芸術を広く伝えるイベント等を企画し好評を得ている。2026年11月28日(土)、富士山本宮浅間大社神田川ふれあい広場にて開催の「ナマステ富士山2026」に出演予定。

